

■パブリックコメント意見への対応一覧表

【資料4】

No.	該当項目		該当頁	意見	みらい戦略プランへの反映結果	担当課	対応結果
1	基本戦略	基本方針1-1	p.23	<p>基本方針1-2くらしとごとの希望をかなえるの1-2-2の、地域課題の解決や地域資源の活用を資する企業・創業で、町部ではなく、荒れていく中山間地区を活性化させるために、いろいろな日本型直接支払の協定数を参考にしようか。</p> <p>豊後大野市は元々協定数が圧倒的に多いのに、今年度は22協定減と大分県で一番減っており、協定面積、交付額ともかなり減っています。それは新しい加算措置に対応できていないからと思われます。例えば、由布市は協定面積がかなり減っていますが、広域化や関係人口をうまくマッチングして、ネットワーク加算で、交付金額がかなり増えています。</p> <p>中山間地では、いろいろに経費がかかるので、南院内では、交付金を利用して大学や企業と連携して人を呼ぶ、人を呼ぶ仕事を創っています。豊後大野市もしていますが、費用対効果は追いついていないように感じます。</p> <p>豊後高田市の長崎鼻はみどり認定加算をはじめ、中山間、多面的、環境保全など、市がうまく利用して、地域に新しい働き口や観光客を呼んでいます。</p> <p>交付金の事務やマッチングは一般の人には難しく、行政が事務局となって広域、マッチング、事務作業の軽減を早急にする必要があると考えます。</p>	—	農業振興課	<p>農業従事者の高齢化や担い手不足などにより、中山間地域に与える影響は深刻なものと捉えております。頂いたご意見も踏まえながら、中山間地域の多面的機能の維持、活性化を図るとともに、効果的な情報提供等を行ってまいります。</p> <p>なお、個別計画で現在策定中の第5次農業振興計画では日本型直接支払協定面積を指標の1つとする予定です。</p>
2	基本戦略	基本方針3-2	p.31	<p>提示されている各項目は、合併から20年にわたり漫然と踏襲されてきた方向性に過ぎず、「みらい戦略プラン」と呼ぶには不十分である。</p> <p>原尻の滝に依存した観光の時代はすでに終焉を迎えており、ジオパークやエコパーク、サウナ、農林業連携といった従来型の施策は陳腐化している。現状で一定の意義を見出せるのは、3-2-4 地域資源の新たな可能性の探求と活用、および 3-2-5 更なるインバウンド需要の取り込みに限られる。</p>	—	商工観光課	<p>これまでも本市にはジオパークやエコパーク、サウナ等を中心に観光客が訪れているなど、これまで一定の成果も見られていることから、「豊後大野市観光振興ビジョン」に基づくこれまでの取組を継承・発展することも大切です。</p> <p>一方で、地域資源の新たな可能性の探求と活用や更なるインバウンド需要の取り込みにより、さらなる観光の振興にも取り組みます。</p>
3	基本戦略	基本方針3-2	p.31	<p>平成29年度に約3,000千円を投じて策定した「里の旅」構想を安易に放棄し、責任の所在も曖昧なまま一般社団法人豊後大野市観光協会に委ねている現状は問題である。さらに、サイクルスポーツツーリズムに関しては、大野町の拠点施設「サイクルパークおおの」が十分に活用されず、事実上放置されている。その結果、後発の佐伯市などにサイクルツーリズムで大きく後れを取っており、町づくり推進課の対応は著しく不適切であると言わざるを得ない。</p> <p>そこで、もう一度平成30年3月当時の豊後大野市観光振興ビジョンを復習してみると</p> <p>②豊後大野市に対して“観光地”という認識が希薄であり、来訪者が少ない ※未来訪（76.8%）のうち、31.8%が「豊後大野市を知らない」</p> <p>③地域資源の中に「スター資源」と呼べるものがない</p>  <p>豊後大野市の本質的価値である「豊かな水と恵の大地」の恩恵を受けた観光資源を活かした豊後大野市ならではの旅のスタイル</p>	—	商工観光課	<p>基本方針3-2「まちの魅力でひとを惹きつける」の本文に、サイクルパークを含めた未だ十分に活用されていない地域資源の新たな可能性の探究と活用に取り組む旨の内容を記載しています。</p>

■パブリックコメント意見への対応一覧表

【資料4】

No.	該当項目		該当頁	意見	みらい戦略プランへの反映結果	担当課	対応結果
4	基本戦略	基本方針3-2	p.31	<p>次に活用すべき地域資源の方向性（三重町こそスター観光地）</p> <ul style="list-style-type: none"> •千体薬師 豊後大野市三重町の薬師如来群像。圧倒的な数と信仰の歴史を背景に、宗教文化・民間信仰の象徴として観光資源化が可能。夜間ライトアップや巡礼スタンプラリーなど、体験型企画に展開できる。 •連城寺 古刹としての歴史的価値に加え、地域の精神文化を伝える場。寺院を拠点とした「禅体験」「写経・写仏」「精進料理」など、インバウンド需要にも対応できるプログラム化が期待される。 •菅尾石仏その他の石仏 国指定史跡であり、平安期の石仏群として芸術的・歴史的価値が高い。石仏文化をテーマにした「石仏めぐり」やデジタルガイドの導入で、文化財観光の核となり得る。 <p>新しい観光地</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 大友氏発祥の地、大野町と常忠寺、勝光寺をめぐるサイクリング拠点施設としてのサイクルパークおおの。 2 美術と音楽と2刀流での芸術の町、千歳町にある幸寿美術資料館としての中九州アートミュージアム。 3 清川町の神楽会館、石橋 4 緒方町の一宮、二宮、三宮と宮迫石仏及び緒方三郎惟栄に関する観光開発。 5 犬飼町の犬飼石仏、大野川の釣り、花火 6 朝地町の蝙蝠の滝。神角寺地区の観光開発。 7 真名野長者、申年に猿の行進をする新しい祭りや土産物イベント開催する内山地区の開発。 	—	商工観光課	基本方針3-2では、具体的な取組の方向性3-2-4として「地域資源の新たな可能性の探求と活用」を掲げており、ご意見も踏まえながら、地域資源の効果的な活用に向けて取り組みを進めてまいります。